

ベストクラス選定理由書

作成者：高田津友実、河口純、大原優奈、木田雅貴、岡崎彩夏、松下隆紀、新岡真弓、伊藤博之

科目名称 学習指導と学校図書館		(担当教員名： 福原優子)
課 程 : 学部	開講時期 : 前期	
授業形態 : 講義・演習	授業規模 : 31～80人	
インタビュー対象教員名 福原優子 (実施日時：2020/07/31 10:40～12:10； 実施場所：Zoom による TV 会議)		
インタビュー対象受講者名 助岡晴菜、古池千夏 (実施日時：同上 ; 実施場所：同上)		
<p>選定理由</p> <p>【授業アンケートの自由記述欄より】</p> <p>○受講者 49 人のうち 30 人も肯定的コメントをしている。その大半がブックトークの良さや面白さを上げていて、よほど印象的なブックトークの取り組みがなされたと推察できる。</p> <p>○ブックトーク以外にも、図書館司書になるのに必要な多様な学びができていたことが読み取れる。</p> <p>【教員へのインタビューより】</p> <p>○この授業では、自らの小学校司書教諭としての実践経験を活かし、司書教諭として必要な知識を学ぶだけでなく、現場に出た際「こんなこともできるな」と感じてもらえるような内容を受講者に伝えるよう努めている。また即戦力となる教員を育てられるよう意識して授業を行っている。</p> <p>○小学生は、集められた資料の中から自分がどういう本を選べばいいか戸惑うことが多い。中には本が嫌いな子や調べ学習に興味のない子もいる。その子たちも含めた児童全員が興味を持って調べ学習に取り組めるようにする手法として、ブックトークを紹介し、実践した。</p> <p>○受講生には、現場の教員となった時、自力で自分が探したい本が探せる子ども、正しい情報を判断できる子どもを育ててほしいと願っている。そのため、兵庫県クイズや DVD などを使用し、実際の授業例や活用方法を提示して、図書館資料や情報リテラシーに関する授業も行った。</p> <p>【受講生へのインタビューより】</p> <p>○一番印象に残っているのはブックトークである。全員分の発表を聞いたことで、他の学生から学ぶことが多くあった。学生同士でやり方やポイントを教えあって、学びを深めることができた。</p> <p>○1～4 回生が受講しており、異学年交流があるのもこの授業の良い点だと感じた。ブックトークの発表で、実習を終えた 4 回生はまさに先生のように、その話し方や言葉の選び方、立ち居振る舞いなど、多くのことに刺激を受けた。また 1 回生のやる気にも感化され、自身の研究に取り組むモチベーションとなった。</p> <p>○出典元を明示することの大切さや情報リテラシー教育の大切さを学んだ。情報が溢れ、誰でも情報が発信できる時代に必要な力を、自分も、子どもたちも身につけなければと思った。</p> <p>【総括】</p> <p>この授業は、司書教諭や現場に立つ教員として必要な知識・力を、グループワークや学生同士の学びを大切にしながら育てたことにその良さがあった。受講者は、特にブックトークの活動においてその良さを感じており、全ての子どもが興味を持って調べ学習に取り組めるよう各自で内容や構成を工夫し、また他学生との教えあいやその発表から多くの刺激を受けながら学んでいた。また異学年との交流の中で、互いの良さに気づいたり、自身の今後の目指すべき姿などを感じたりしながら、刺激しあい主体的に学びを深められたと感じる学生が多数いた。総じて、担当教員の熱心な指導と工夫された活動内容から、主体的な学び・学生同士の学び合いによる協働的な学び・それらを通じての深い学びが実現された授業となっていた。</p> <p>以上のことから、ベストクラス選定候補としてふさわしい授業であると考えられるためこの科目を推薦する。</p>		